

【参考】開講時予定内容

講義名	応用経済学特論			授業形態	
担当教員	丸山 亜希子	開講期・曜日・時限			
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

経済学的な思考ができること、社会情勢や世の中の仕組みをより深く理解する事ができる。応用経済学特論では、そうした経済学的な思考を習得することを目標に、基礎知識の1つのミクロ経済理論を説明し、理論が現実の経済事象にどのように適用されるかをいくつか個別の分野ごとに説明する。より具体的には、ミクロ経済学の範囲では、消費者理論、生産者理論、余剰など基本的な部分の理論を解説する。次に、それらを活用した例として、政府の役割、労働市場、地域経済といった分野の内容をそれぞれ取り上げる。授業では、ミクロ経済学の考え方を習得し、それらを用いてどのように現実の事象に応用できるかを考察する。

到達目標

- ・経済学の方法論を確認し、経済学的な考え方を身につける。
- ・現実の経済問題を経済学的思考に基づいて把握し、解決策を検討することができる。

提出課題

学期中の課題、中間課題、期末課題がある。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

学期中の小課題は、次の授業回で解説する。

評価の基準

授業への参加態度+学期中の課題+中間課題（50%）
 期末課題（50%）
 出席による加点はないが、欠席または遅刻は減点対象となり、の点から差し引く。
 授業参加態度には発言なども含まれ、評価対象となる。

履修にあたっての注意・助言他

マナーを守り、節度ある態度で受講すること。
 ポータルサイトへの掲示やメールにも、常に注意しておくこと。
 新聞、雑誌及びニュースを参照して、常に社会の動向を追っておくこと。
 本授業では経済学的思考の習得に重きを置いているため、数理的な経済モデルはほとんど扱わない。

教科書

・マンキュー入門経済学（第3版）	N.グレイジー マンキュー	東洋経済新報社	3520	9784535557567
------------------	---------------	---------	------	---------------

参考図書

・ミクロ経済学I -市場の失敗と政府の失敗-	八田達夫	東洋経済新報社	3850	978-4492812983
------------------------	------	---------	------	----------------

その他

この他の参考文献は別途指示します。

授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 経済学の十大原理
- 第3回 完全競争市場、需要と供給
- 第4回 市場均衡
- 第5回 余剰、市場の効率性
- 第6回 価格規制
- 第7回 政府の役割、市場の失敗
- 第8回 政府の役割、外部性
- 第9回 政府の役割、課税
- 第10回 労働市場、労働需要
- 第11回 労働市場、労働供給
- 第12回 労働市場、労働市場の分析
- 第13回 労働市場、最低賃金制度
- 第14回 地域分析：地域間移動
- 第15回 まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- <予習>
 授業予定に従い、次回の講義内容について、テキストの該当範囲を読み、予習しておく。(120分/回)
- <復習>
 読まれた課題や問題演習に取り組み、間違えた箇所はなぜ間違えたのかを必ず確認する。(120分以上/回)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業の到達目標を達成することで学生は、ディプロマポリシーの「流通科学諸分野における豊かな学識と研究能力を身につけていること、または高度専門職人として、より実践的・課題解決的な能力を身につけていること」を達成できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レスポンスを使用する。

実務経験の有無及び活用

備考